

第4学年2組 道徳科学習指導案

指導者

令和7年11月20日(木) 第5時限 4年2組教室

- 1 主 題 家族でささえ合う [C-(14) 家族愛、家庭生活の充実]
- 2 教 材 オムライス (教科書P95～99)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値観

家庭とは、児童が生を受けてから初めて所属する社会である。児童は、家庭で家族との関わりを通して愛情をもって保護され、育てられてきている。しかし、家庭は、家族という集団が生活する「社会」であり、自分の思い通りにならないことも多々ある。

中学年の発達段階においては、「父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること」が求められる。中学年になり、「協力し合う」ことがキーワードになるが、それが具体的にどんな姿、行動で、家族にどんな影響を与えるか実感をもつことは難しい。そこで、毎日一緒に生活する家族だからこそ、家族の一員としてどんな気持ちで接していくか考えることは、家族と協力し合うことについて考える上で大切な道徳的心情であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、家族への感謝や家族のおかげで今の自分があるということを意識できている。また、「ブラッドレーの請求書」を通して、家族の一員として、手伝いをして家族の役に立とうとする気持ちについて考えることができている。

しかし、家族で「協力し合う」具体的な姿となると、児童の中では、「お手伝いをする」という姿を想像する児童が多い。そこで、手伝いをするだけでなく、「協力し合う」ではなく、日頃の生活の中や思いが通じないときに、自分のできることをしたり、あたたかい声をかけたりするなど、「支え合う」という家族を思った行いができる児童を育成したい。

(3) 教材観

本教材の主人公「たける」には、5歳になる弟がいる。弟は体調を崩しやすく、母親はいつもつきっきりだった。たけるはそんな母親の手伝いをして支えた。そんなある日、たけるの誕生日を母親の手料理で祝うことになる。しかし、誕生日当日、弟がまた体調を崩し、母親が急遽病院に連れていくことになった。今まで我慢していたたけるは、母親に対して自分の思いをぶつけてしまう。一人家に残って泣いているたけるに、帰宅した父親は、たけるに対する母親の気持ちが綴られた手紙を渡す。その手紙を読んだたけるは、母親が作りかけていたオムライスに飾り付けの続きをして、二人が帰ってくるのを待つという話である。家族と協力し合うだけでなく、支え合うということに視点を置き、家族のため、家庭のためにどんなことができるかを考える上で適した教材である。

指導にあたっては、教材に基づいて登場人物の気持ちを確認しながら、学習活動を展開する。弟につきっきりになっている母親を支えようと頑張る気持ち、手伝いは面倒くさいという気持ちの両方があることを確認する。その後、自分の思いをぶつけたたけるの気持ちを劇化することで、切実さを実感させる。そうすることによって、家族間で思いが通じないときの気持ちを自分事として捉えさせたい。その上で、帰ってきた二人にどんなことをするか考えさせる。そして、家族と支え合うとは、手伝いなどの協力だけでなく、互いを思い合う、心の通い合いだと気付いて、家族のことを考えて行動しようとする児童を育てていきたい。

4 指導計画 1時間完了

5 本時の指導

(1) 本時のねらいと評価

「ぼく」に対するお母さんの思いについて考えることを通して、家族みんなで協力し合うことのよさに気付き、家族と協力し合って楽しい家庭をつくらうとする心情を育てる。

【評価】(振り返りシートの記述内容)

家族のよさについて理解し、家族と協力し合うことの大切さについて、自分との関わりで考えて気持ちを述べている。

(2) 準備・資料

教師 場面絵 ワークシート 振り返りシート タブレットPC

児童 タブレットPC

(3) 関 連

「ブラッドレーの請求書」では、家族の大切さに気付き、自分が家族のためにできることを考えて役に立とうとすることができる児童の育成をねらいとする。そして、本教材では、家族みんなで協力し合うことのよさに気付き、家族と協力し合って楽しい家庭をつくらうとする児童の育成をねらいとする。

(4) 指導過程 [本時の学習課題] ◇ 主な発問 ◆ 中心発問 罫 補助発問

段	分	学 習 活 動	指 導 の 手 だ て
導	3	1 これまでの生活を振り返る。	○ 児童の実体験を発表する場を設定し、価値への導入を図ることで、問題意識をもつことができるようにする。 ○ 「助けてもらっている」という意見から、「助け合う」とは
入		◇ みなさんにとって、家族はどんな存在ですか。 ・ 悩んでいるときに話を聞いてくれる頼れる存在。 ・ 自分を受け止めてくれる大切な存在。	

導 入	2	2 本時の学習課題をつかむ。	<p>どうということかという視点に移行していく。</p> <p>○ 児童の発言から本時の学習課題に繋げる。</p>
		----- 家族と助け合うとはどういうことだろう。 -----	
展 開	5	3 教材の範読を聞き、登場人物の心情について話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。	○ 範読後、感想をウェビングマップ形式でまとめたり、場面絵を提示したりしてあらすじを確認する。(場面絵)
	6	(2) 家族のために自分ができる家事をする「たける」の気持ちを考える。	○ お母さんや弟のために頑張りたいというポジティブな気持ちと、面倒くさいというネガティブな「たける」の気持ちを確認する。
	12	◇ お父さんと夕ご飯を作ったり、洗濯物を畳んだりしている「たける」はどんな気持ちでしょう。	○ たくさんの意見を出し、「たける」の気持ちに共感させる。
	10	(3) 弟ばかり手をかける母親に対する「たける」の気持ちを考える。	◎ タブレットPCの「心の数直線」を活用し、立場を明確にした上で、その理由を発表させる。(タブレットPC)
	◇ 「もう、お母さんの料理なんて食べたくない」と言った「たける」をどう思いますか。	補 この言葉を言った「たける」は、どんな気持ちだったでしょう。	
	【「たける」の気持ちに共感する】	○ 児童が「たける」役、教師が「お母さん」役の劇化をすることで、「たける」の気持ちに注目できるようにする。	
	・ お母さんが大変だから、力になりたい。	○ その後、劇化を見て、どう思ったか周りに聞いたり、やった本人に気持ちを聞いたりして、「たける」の気持ちに共感できるようにする。	
	・ 頑張る気持ちはあるけど、正直面倒くさい。	○ 自分が「たける」だったら、どうするか考える。また、なぜその行動をしたか理由も発表させる。	
	・ なんて僕ばかり家のことをしないといけないの。	補 オムライスに書かれた「ありがとう」は、何に対する感謝なのでしょう。	
	【「たける」の気持ちに共感しない】		
	・ お母さんも、弟も何も悪くない。	○ 導入の発言内容と比較することで、「家族を助け合う」具体的な行動を確認し、家族を想うことの大切さに気付くことができるようにする。(ワークシート)	
	・ 別の日にちゃんとお祝いするから許してほしい。		
	(4) お母さんと弟が病院から帰ってきたとき、「たける」はどうするか考える。		
	◆ 自分が「ぼく」だったら、お母さんや弟に何をしますか。		
	・ お母さんにひどいことを言ってしまったことを謝る。		
	・ 弟が元気になったら、誕生日会をしようと伝える。		
	・ 手紙に対しての感謝の気持ちを伝える。		
	4 「家族」について自分の考えをまとめる。 【個→斉】		
	◇ 「家族と助け合う」とはどういうことだろう。		
	・ 手伝いだけでなく、やさしい言葉をかけること。		
	・ 家族の誰かが大変なときに、自分のできることをすること。		
終 末	3	5 今日の授業で学んだことを振り返る。 【個】	○ 日常生活を振り返り、本時の学習内容と結び付けて書くように伝える。(振り返りシート) ★評価の場面

6 反省

7 高評